

▼コラム

第7回 CNCP サロン

新型コロナワクチン 平静を失わないために

DNA 問題研究会/ライター

村上 茂樹



新型コロナワクチンは、1 回以上の接種をした人が、20 パーセントを越す一方で、副反応や中・長期の影響はわからないまま、若年層にも接種は及んでいる。落ち着いて考えたい。

2019 年 12 月に中国の海鮮市場で広がったとされる新型コロナウイルス感染症（COVID-19）はパンデミックを引き起こし、2021 年 6 月 30 日現在で、世界の感染者は 1 億 8000 万人を超え、408 万人あまりの人が亡くなっています。新型コロナワクチンは米英では昨年暮れから、日本では今年 2 月にファイザー、5 月にモデルナとアストラゼネカのものが特例承認されて、接種が開始されました。6 月 30 日の時点で 1 回以上の接種をした人が、2891 万人（人口の 22.7 パーセント）を超えています。

今回特例承認された mRNA ワクチン、ウイルスベクターワクチンとは、全く新しいタイプのワクチンです。mRNA は、コロナウイルスとおよそ同じ大きさの油の膜に包まれています。mRNA は遺伝情報の伝達物質で、コロナウイルスの表面にあるスパイクタンパク質の設計図が書いてあります。ウイルスに感染すると、人間の免疫はスパイクタンパク質を抗原として認識します。ワクチンを注射で接種すると体内でスパイクタンパク質が作られます。スパイクタンパク質に対する抗体が作られ、「細胞性免疫」と呼ばれる免疫反応を引き起こします。ウイルスベクターワクチンは、エボラ出血熱ワクチン（2019 年）しか前例がありません。チンパンジーの風邪ウイルスを遺伝子操作して、病原性を失わせ、体内で増えないようにしたものをつくり、スパイクタンパク質の設計図を記した DNA を組み込みます。接種すると人間の細胞の中で、コロナウイルスのスパイクタンパク質を生産し、免疫反応を引き起こします。

私は新型コロナワクチンには様々な問題があると思います。ワクチンは、安全性、有効性、必要性などの観点から評価されなければなりません。ですから開発に時間がかかります。しかし今回、世界は緊急事態であることを理由として審査を簡略化して 1 年以内に承認しました。しかし、人類に初めてのタイプのワクチンを不十分な治験のまま大規模に接種してよいのでしょうか。副反応については、他のワクチンと比べて、アナフェラキシーをはじめ、発熱、倦怠感、悪寒などがとても多く、血栓症、心筋炎を起こすなど注意喚起がされていますが、メリットは副反応のリスクを上回るとして接種が続いています。中・長期的な安全性は何も明らかになっていません。他には、ウイルスベクター・ワクチンの場合、弱毒ウイルスを用いても毒性を復活させることがある、抗体依存性感染増強（ADE）やワクチン関連呼吸器疾患増強（ERD）が引き起こされる、変異ウイルスに合わせて新しいワクチンの開発が必要となり、今後ワクチンを接種し続ける、など可能性とはいえ、懸念されることはたくさんあります。さらには 12 歳以上の子どもへの接種がはじまっていますが、日本では 10 代未満の死者はいません。ここは冷静になるべきです。新型コロナウイルス感染症の、感染症法における位置付けに課題があるのではないのでしょうか。エボラウイルスに匹敵するほどかを俯瞰的に考える必要があると思います。米国（1800 人。以下カッコ内は 5 月 30 日付、100 万人当たりの死者数）、英国（1895 人）、ブラジル（2195 人）など大きな被害を出し、都市封鎖などの強い措置をとる諸国と比べると、日本の被害は、低水準です（死者 100 人）。季節性インフルエンザと同様の扱いならば、落ち着いて考える余裕が生まれ、選択できるのではないかと思います。（コーディネーターの世古一穂さんより社会学的視点から以下の指摘があった。ワクチンを打つ、打たないは個人の自由。現在の同調圧力や職場や学校で接種を結果として強制するのは基本的人権を侵害している。また、コロナで職を失い、貧困に陥った人々への社会的支援策が欠落しているのも、人権問題だ）。

1-2 コロナウイルスとは

編集部ピックアップ記事



コロナウイルスは遺伝情報として RNA をもっています。RNA ウイルスの一種（一本鎖 RNA ウイルス）で粒子の一番外側に「エンベロープ」という脂質でできた二重の膜を持っています。スパイクタンパク質が感染に重要な役割を果たします。